

Q&A

潰瘍性大腸炎術後の上腹部痛

桑原 隆一 池内 浩基¹⁾

【問 題】

症例：50 歳代，女性。

主訴：上腹部痛。

既往歴：潰瘍性大腸炎（44 歳時に大腸全摘，回腸囊肛門吻合術施行）。

生活歴：喫煙歴，飲酒歴はなし。

家族歴：特記すべきことなし。

現病歴：34 歳時に潰瘍性大腸炎と診断された。以降 5-アミノサリチル酸製剤やステロイドで内科的治療を行い，再燃と寛解を繰り返していた。44

歳時に難治のため大腸全摘，回腸囊肛門吻合術を施行。その後は整腸剤，止痢剤の内服のみで順調に経過していた。最近になり上腹部の不快感があり，採血にて血清アミラーゼ値が 400U/l 台と上昇を認めた。

現症：BT 36.5℃，その他 vital sign 異常なし，腹部は平坦，軟で明らかな腹膜刺激症状はなし。便回数は 5～6 行/日で，明らかな下血は認めていない。

血液検査所見：WBC：5120/ μ l，RBC：401 \times 10⁴/ μ l，Hb：11.3g/dl，Plt：23.6 \times 10⁴/ μ l，TP：6.8g/dl，Alb：3.6g/dl，BUN：10.0mg/dl，Cr：

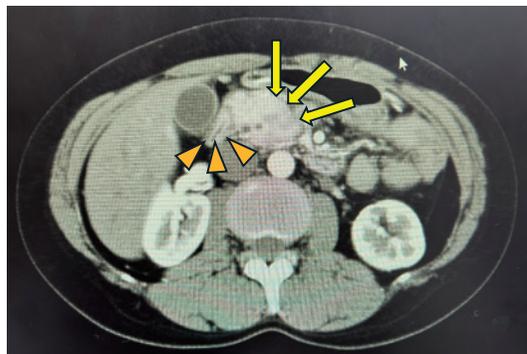


Figure 1. 腹部 CT 所見：膵頭部に腫瘍（矢印）と十二指腸の壁肥厚（矢頭）を認める。

1) 兵庫医科大学消化器外科学講座炎症性腸疾患外科
Epigastric pain following surgery for ulcerative colitis
Ryuichi KUWAHARA and Hiroki IKEUCHI¹⁾

1) Division of Inflammatory Bowel Disease Surgery, Department of Gastroenterological Surgery, Hyogo Medical University

Corresponding author：桑原 隆一 (ri-kuwahara@hyo-med.ac.jp)

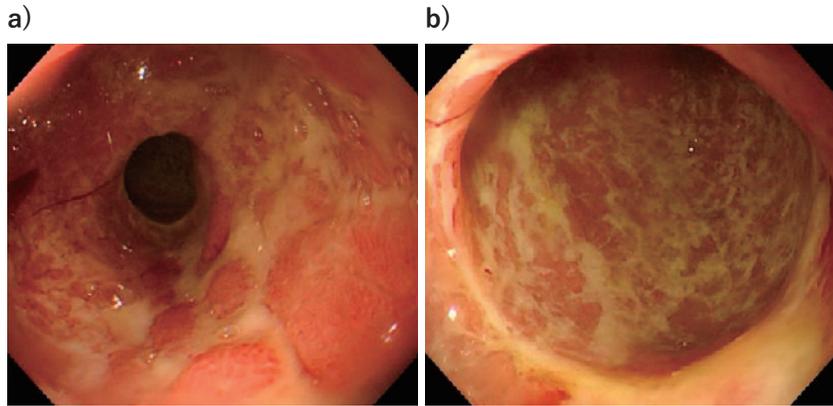


Figure 2. 上部消化管内視鏡検査 a) 胃幽門部, b) 十二指腸球部. 膿性粘液の付着をともなう連続性のびらんを認める.

0.86mg/dl, AST : 17IU/l, ALT : 14IU/l, ALP : 219IU/l, AMY : 402U/l, CRP : 0.18mg/dl と, 血清 AMY 値の上昇を認めた. CEA : 3.8ng/ml, CA19-9 : 29.4U/ml, リパーゼ : 144U/l, Span-1 Ag : 20U/l, DUPAN-2 : 130U/ml であった.

Figure 1 に腹部 CT 所見, Figure 2 に上部消化管内視鏡検査所見を示す.

診断は？